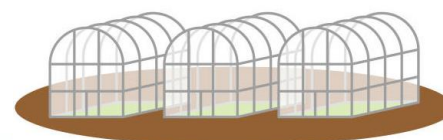




ミズナ栽培における主な病害虫の防除

ミズナ栽培では、ハウスを利用して周年で長期に連作すると、土壌病害の立枯病やリゾクトニア病、萎凋病、軟腐病などが発生しやすくなります。また、茎葉病害では白さび病や菌核病など、害虫ではキスジノミハムシ、アブラムシ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハイマダラノメイガなどが時期により発生します。

作期によって病害虫被害の発生が大きく異なりますので、作期ごとに病害虫の発生実態をよく整理し、作期ごとの適切な防除体系を組み立てることが重要になります。



防除対策のポイント

ミズナには登録薬剤が少ないため、薬剤防除のみに頼らない**総合防除が必要**です。

- ①多湿条件が病害の発生を助長するため、圃場の排水不良の改善や高畦栽培を行い、過度の灌水を避けて適度な湿度条件に保つよう、ハウスやトンネル換気等の適正管理に努めます。
- ②発病株は早めに除去し、発病場所を中心に早めの薬剤防除を行います。
- ③連作や土壌病害が発生した圃場では、除塩を兼ねて、夏季の還元型太陽熱土壌消毒などを実施しましょう。
- ④害虫の対策には、ハウスやトンネルの開口部に防虫ネットを展張して、害虫の侵入を防ぐことが最も大切です。
- ⑤害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を除草するなど、圃場衛生に努めます。
- ⑥登録のある各種粒剤を播種または定植前に処理し、被害が発生したら早期の除去と薬剤防除を実施してください。

表1 ミズナ主要病害に対する主な防除薬剤

(令和5年9月13日現在)

対象病害					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
立枯病	根こぶ病	リゾクトニア病	白さび病	軟腐病				
○					ダコニール1000	1,000倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	M5
○					タチガレン液剤	500倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	32
	○				フロンサイド粉剤	30kg/10a全面土壌混和	播種前/1回	29
		○			リゾレックス水和剤	1,000倍液を3ℓ/m ² 土壌灌注	播種時/1回	14
			○		ユニフォーム粒剤	9kg/10a全面土壌混和	播種前または定植前/1回	4と11
			○	○	ジーファイン水和剤	1,000倍	収穫前日まで/ -	M1とNC
			○		ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで/3回以内	21
			○		アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	11
				○	Zボルドー	500~1,000倍	- / -	M1

注) 表1の分類欄にはFRACコード、表2にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ミズナ主要害虫に対する主な防除薬剤

(令和5年9月13日現在)

対象害虫					薬剤名	使用量または希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
キスジノミハムシ	アブラムシ類	コナガ	アオムシ	ハモグリバエ類				
○	○				スタークル粒剤	6kg/10a播溝土壌混和	播種時/1回	4A
○					ダイアジノン粒剤5	6kg/10a全面土壌混和	播種時または定植時/1回	1B
○					フォース粒剤	4kg/10a全面土壌混和	播種前/1回	3A
○		○			アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで/3回以内	22B
			○		アディオソ乳剤	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	3A
	○				ウララDF	3,000倍	収穫前日まで/3回以内	3A
	○				ウララDF	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	29
		○	○		エコマスターBT	1,000~2,000倍	収穫前日(発生初期)まで/ -	11A
○		○	○		プロフレアSC	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	30
		○	○	○	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで/1回	5
		○	○	○	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	6
		○	○	○ オマカモグリバエ	カスケード乳剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	15
○	○				モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	収穫7日前まで/1回	4A

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。